

■■感染症予防は終わらない■■

現在でも新型コロナウイルス感染症が最も警戒すべき感染症であることは変わらないが、そもそも人が密集するイベント会場は、新型コロナウイルスの登場以前もインフルエンザやノロウイルスなどの感染が拡大しかねない場だったことから、毎年当記事でも継続して感染拡大防止を呼びかけていた。

しかし、コロナ禍中に社会全体でマスクの着用や手洗い、消毒などを推進した結果、それらの他の感染症の予防にも絶大な効果があることが可視化された。

現在のところ、社会全体としてはコロナを警戒して施してきた制限や予防策の多くを解除する方向に進んでいるが、実際効果的と分かったものを敢えて放棄すべき理由はない。

互いの安全を守りコミケット会場をパンデミックの場にしてしまわないために、コミケットの会期中は感染症予防を徹底するようにしたい。

感染拡大症予防は常に『1人はみんなのために、みんなは1人のために』なのだから。

■今更だけど再確認■

コロナ禍を通してあらゆる場所で見聞き、だれもが既に頭には入っているだろうが、ここしばらくの解除方向で認識から外れてしまっているかもしれない。この機会に基本に立ち返ってイベント参加時の感染予防策を再確認しておこう。

- 感染症によっては潜伏期間があるので、イベント3日ほど前から体調に注意して熱を測っておく。軽微でも咳や発熱、不自然な身体のだるさ、胃腸の不調など異常があれば早めに受診しておこう。
- イベント当日朝も検温と体調確認を忘れずに。その時点で微熱でもあるなら、決して無理をして参加しないこと。会場で体調が悪化しても基本自力で帰宅や受診しなくてはならないので、体調不良をおして参加するのは危険だ。異常がなければ、朝食をしっかり摂り、トイレも済ませて出かけよう。
- 交通機関や会場内では必要に応じてマスクを着用。
マスクは必ず予備を持参し、最低限入場直前と帰宅前に交換すれば会場にウイルスを持ち込まず/会場から持ち帰らずにすむ。
- 手指の洗浄や消毒はこまめに行う。特に飲食の前には必ず手指を清潔にする習慣をつけよう。アルコールやウェットティッシュ類で拭いていても、定期的に水と石鹸でよく手を洗うのに勝ることはない。
- 念のため健康保険証、使ってれば「お薬手帳」やメディカルカードなどの基礎医療情報や緊急連絡先を記載したものを持参（紛失には注意）し、信頼できる同行者がいるなら、互いの緊急連絡先を交換しておくとうい。
- 会場内で体調を崩したら、まずは最優先で座れる場所（屋外なら日陰になる場所）を確保し、腰を下ろそう。待機列内なら周囲の参加者かスタッフに一声かけていったん列から離れて休憩するとよい。
大切なのは一人で我慢しすぎないことだ。大丈夫と思っているうちに状態が悪化して倒れてしまっては元も子もない。会場で体調を崩した際の基本対応は、動けるうちになるべく早く帰宅することだ。救護室も、あくまで帰宅できる程度まで回復をはかる場所と考えよう。



●もしコミケット後に体調が悪化したら

夏もしコミケットから帰宅した後、体調が急激に悪化した場合、当日中であれば熱疲労（暑さが原因の熱中症未満の体調不良）の可能性が最も高いので十分に水分を摂り、涼しい部屋で休息すれば回復する。しかし、症状的にそうではない、あるいは休んでも回復しなければ、新型コロナに限らず、会場で何らかの感染症に罹患してしまったかもしれない。その場合は（病院を受診するためであっても）むやみに移動したり、他人と接触すると感染を拡大するおそれもあるので、まずは消防庁『救急安心センター（電話番号#7119）』に電話して症状などを報告・相談しよう。

適切な対処方法や、診療を受けられる施設を教えてもらうことができる。

■総務省消防庁【救急安心センター事業（#7119）ってナニ？】▶

